

食いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第57回 2023年2月)



中学時代の恩師ハシモト先生の話の続き。えっ何のこっちゃい、と思う人はバックナンバーで前号を読むべし。

さて、ハシモト先生独特のメソッドのもと、みんな暗い気持ちで授業を受けていた5月のある日。どれほど討論しても正解にたどりつけない問題があった。仕方ないので声をそろえて先生に訊ねた。

「わからないので教えてください」

後ろにいたハシモト先生は、つつかつかと歩いて教壇に立つと、いつにも増して殺気のかもった眼で教室を見回した。みんな固唾をのんで先生が口を開くのを待った。

「アホかおまえら。次！」

そう言うと、先生はつつかつかと後ろへ戻っていった。

(教えてくださいんのかい！)

全員が啞然としたことは言うまでもない。



正解がわからないままでは、その問題がテストに出たとしたらクラス全員が答えられなくなる。しばらくして、よそのクラスがその問題に正解を出したという噂が流れてきた。そのクラスには友人がいたので、しめしめと訊きに行った。



「教えられんなあ。自分らで解けよ」

友人は冷たい口調でそう言った。

(教えてくださいんのかい！)

幸いその問題はテストに出なかったが、この出来事は食いしん防のいるクラスにパニックを巻き起こした。

(自分たちで問題を解かなければ、誰も教えてくれない！)

そして1学期も終わりに近づいたころ、奇跡が起こった。

その日も超難題が1つあった。全員がまったくわからない。だが空白にしてあれば問答無用でとばされるので、絶対に間違っている答えを仕方なく板書した。

授業が始まり、その問題にとりかかった。板書した子が、明らかに間違っている答えをしゅしゅ発表する。別の子がその間違いを指摘する。そしてあーだこーだと議論しているうちに、何と正解にたどり着いてしまったのだ！

「次に進んでいいですか？」

みんなは声をそろえてそう言うと、ハシモト先生の反応を見守った。先生はほんのかすか口元に笑みらしきものを浮かべると、いつもより力強い声で言った。

「よし！」

それから我がクラスは変わった。夢中になって問題に取り組むようになったのだ。相変わらずハシモト先生からは一つも教えてもらえないのに、すべての問題を自分たちだけで力を合わせて解いていったのだ。

同時に我々は知った。先生の出していた問題こそが、文章を読み解いていく上での重要な鍵であったことを。

あの奇跡の日以来、国語の授業がもっとも面白い時間になった。テストもほぼ満点である。ハシモト先生は相も変わらず殺人鬼の雰囲気をもっていたが、もはやさほど怖いとは感じられなかった。

【続く】



TOPICS

☆こと防のブロック活動始まる！

今年度の湖東地区防災ネットワークの活動、ここまでは全体で集まって研修を受けるのが中心だったが、いよいよブロックごとに分かれての活動が始まった。まず1月の後半には、第三小学校と支所のブロックが会議を行い、次年度に向けての具体的な活動内容を検討した。

これから会議を開くブロックもあるので詳細は次号にお伝えするが、出席した防災推進員さんたちは活発な意見交換を繰り広げた。他のブロックも続いて会議を開く予定。コロナ禍でしばらく停滞していた湖東地区の防災活動が、満を持して動き出す！



←支所ブロック(熱さでは負けない！)



今後の活動予定

2月のいつか こと防第一・二小、ひばり幼児園ブロック会議

※ 出前講座の申し込み受け付けます！

勝手にQ&Aコーナー

個別避難計画書	
氏名	
性別	
年齢	
住所	
電話番号	
緊急連絡先	
避難場所	
避難経路	
避難用具	
その他	

Q：「個別避難計画」を作成するのに、**決まった様式**はあるのですか？

A：おおっと、こと防の会議で出された質問だあ！ 現時点で市が作った様式はあります。おそらく今後も徐々にバージョンアップされていくはず。いずれにしても、その様式に100%従う必要はなく、**自分たちの使い勝手に合わせた様式を作るのもOK**だと思います。

Q：ハシモト先生の問題が解けるようになって、他の解けなかったクラスに正解を教えてあげたんですか？

A：もちろん**教えてやりません！** 「自分らで解け」と言ってやりました。決して意地悪だったわけではなく、そうしなければ**ハシモト先生の授業を受ける意味がなくなる**から。もし5月に食いしん防たちが正解を出したクラスから教えられていたら、あの奇跡は起きず、国語の時間は苦痛なままだったに違いない。



楽しい質問、お待ちしております！

(文責：こじまっちょ)

